



猪子英俊教授

(1948年1月4日-2022年1月3日)

## 猪子英俊先生を悼む

本文

Siamak Bahram (Professor, Laboratoire d'ImmunoRhumatologie Moléculaire, INSERM UMR\_S1109, Centre de Recherche d'Immunologie et d'Hématologie, Université de Strasbourg, Strasbourg, France)

John Trowsdale (Emeritus Professor, Department of Pathology, University of Cambridge, Cambridge, United Kingdom)

和訳：太田正穂（信州大学）

ヒトの免疫遺伝学の解析がいかに紆余曲折を経てきたかが忘れられがちなこの時代、実はMHC遺伝子に関する基礎的発見のほとんどは、高性能配列解読装置（high throughput sequencing）が登場する以前に行われています。猪子英俊先生は、1980年代にヒトおよび他の生物種のMHC領域について大規模な構造解析の価値を見出し、1999年にMHC複合体領域の最初の大規模配列決定に貢献する前から、この分野の発展に大きく寄与してきました。1990年からは、組織適合性抗原のDNAタイピング法をいち早く開発し、取り入れました。また、多型マイクロサテライトを用いたゲノム規模での疾患感受性遺伝子マップの作成に成功し、当時としては画期的な27,000以上のマイクロサテライトを用いて、関節リウマチのゲノムワイド関連解析（GWAS）を報告しています（2005年）。

先生は、1966年から1976年に京都大学で理学士号、修士号、博士号を取得し、その後、慶応義塾大学で8年間研究し、1984年に東海大学に移籍しました。1986年から1

年間、ロンドンの英国がん研究所 (Cancer Research UK:当時ICRF) のTrowsdale教授研究室に留学し、1987年には医学博士号を取得しました。1992年には東海大学医学部の教授に就任しました。また、先生の指導的資質が認められ、1993年に東海大学医学部分子生命科学科長、2000年に副学長、2002年に大学院医学研究科長、2006年に医学部長 (医学研究所長を兼務) を務めました。2021年にはiPS細胞研究所特任教授、2013年には東海大学名誉教授に就任しています。過去10年間にSeiamak Bahramとの共同で、組織適合性に焦点を当てた唯一の日仏共同INSERM-JSPS研究室を主宰しました。

猪子先生は、国際組織適合性および免疫遺伝学ワークショップ (IHW) の評議員を務め、これらの大規模なイベントやアジア・オセアニア組織適合性・免疫遺伝学ワークショップ (AOH) の成功に主要な役割を果たしました。また、日本組織適合性学会の会長も務めました。教育にも熱心で、日本のみならず海外の研究機関で客員講師も務めました。

仕事仲間として、Hideはユニークで、偉大な友人でした。彼は、スコッチウイスキーやブルゴーニュの赤ワインと同様、海外旅行や交友との親交を満喫していました。また、熱心なゴルフプレーヤーでもありました。日本では、私たちに日本文化を体験してもらおうと、18時間体制で優しさと惜しみないもてなしをして頂きました。Hideは仕事も遊びも一生懸命で、いつも明るく、気さくな人でした。

Seiamak Bahram and John Trowsdale

猪子英俊先生を悼む 本文：Siamak Bahram (仏国ストラスブール大学教授), John Trowsdale (英国ケンブリッジ大学教授) 和訳：太田正穂 (信州大学医学部内科学第2特任教授)